

# We Believe

ミッション! パッション! ハイテンション!

## 9月定時総会、懇親会を終えて

総務委員会委員長 川西 竜



9月25日(火)2020年度9月定時総会、懇親会を開催いたしました。

今年度の総会は、例年使用させていただいておりました、はねやホテルさんから、現役会員が在籍しているプラザホテルむつさんへ、変更させていただいての開催となりました。

9月定時総会は、次年度理事役員を会員の皆さまに承認していただく大切な総会です。平日の早い時間からということもあり、出席者が例年より少なかったですが、無事承認をいただき、次年度へ向けての体制が整ったと思います。

懇親会につきましては、現在のコロナ禍と言う、特殊な状況ということもあり、対面しない座席やグラスをつけない乾杯等、新しい生活様式も取り入れた懇親会となりました。

そんな状況にもかかわらず、OBの先輩方には多数お集まりいただき、大変感謝申し上げます。

先輩方からの熱いメッセージもたくさんいただき、残り少なくなった今年度を乗り切り、次年度体制へと向かって行けたらと思います。

最後に、総務委員会グループ総出で作成しました、ぼんぼこねぶたも無事お披露目できました。こちらについては、総務委員会副委員長の福士さんが、詳細を語るとしています。現在、次年度理事長予定者、成田圭秀くんのみらい保険センターに保管されています。廃棄物として連絡が来ない事を祈っております。

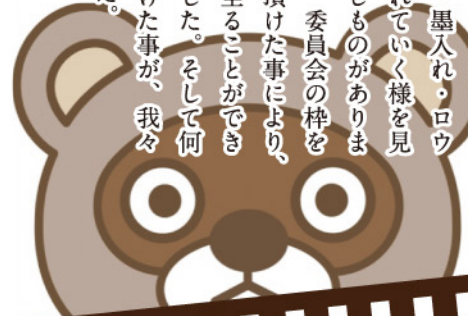
## 9月定時総会懇親会 ぼんぼこねぶた製作

総務委員会副委員長 福士 健治

9月定時総会懇親会における次年度理事長の登場演出について意見交換していた中で、「ネプタでも作るか。」そのような一言から、我々・総務委員会と仲間たちの「ネプタ」との格闘は始まりました。

コロナ禍であらゆる祭りやイベントが軒並み中止となる中、「ネプタを見ることでお祭りの気分だけでも味わえるのではないか。」いや、「我々も製作することで熱い想いを感じ取りたい。」と、ネプタ製作に取り掛かりました。成田圭秀次年度理事長の代名詞でもある、YouTube「ぼんぼこチャンネル」のキャラクターをモチーフに製作、そして完成した暁には、ネプタの中から登場して頂こうと決まりました。成田次年度理事長へは、登場演出時までは秘密裏に進められました。

とは言え、ネプタを見るのは好きな我々も、創るのはもちろん初めてです。材料の準備から製作工程に至るまで、手探り状態からのスタートでした。坂本出向理事のCADソフトによってネプタを図面化(立体パース化)して頂いた事で、完成予想は脳裏に完璧にイメージされたのですが、そこはやはり初心者の私たち。やってみるとイメージ通りには創ることができませんでした。それでも連日試行錯誤を繰り返し、骨組み・針金組み・紙貼り・墨入れ・ロウ入れ・色付けと工程を経て、形作られていく様を見守る事は、まさに事業の達成感と同じものがありました。また、ネプタ製作においては、委員会の枠を超え本当に沢山の方々に製作ご協力頂いた事により、皆様へご披露できるまでの完成度に至ることができました。ご協力ありがとうございました。そして何より、成田次年度理事長に喜んで頂けた事が、我々にとって達成感と満足感の極みでした。



9月11日、青森県環境生活部青少年・男女共同参画課主催の「他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会」が大湊高校で開催されました。

ご招待いただき、むつ青年会議所から理事長はじめ数名がワークショップの進行などで参加させていただきました。

生徒と地域の大人との相互理解を促進し、信頼関係の構築を図ることを目的として開催され、アイスブレイクの自己紹介やその自己紹介をした感想を話し合ったり、思いやりに大切なことは何かや、命の大切さについて言葉を交わす機会となりました。

地域の青少年と語り合う貴重な機会をいただきました。

開催にあたってご尽力くださった関係各位に改めて御礼申し上げます。



### 「他人を思いやり命を大切に 心を育む対話集会」に参加して

赤松 靖

9月11日、青森県環境生活部青少年・男女共同参画課主催の「他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会」が大湊高校で開催され、当会議所から理事長をはじめ4名が参加させていただきました。

青森県では、次代を担う子どもたちが、命を大切にし他人への思いやりを持ち、たくましく健やかに成長することができるよう、「命を大切にすることを育む県民運動」を展開しています。この県民運動の一環として、「他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会」が県内の中学校、高等学校で定期的に実施されております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により予定通りに開催できずにはいりましたが、関係各所の尽力のもと今回の開催に至ったというのを冒頭に担当者が話されていました。100人を超える人が体育館に集まったため、マスクの着用と適切な距離をとり、新しい生活様式に即して行われました。

大湊高校での開催にあたり当会議所のほか、自治会や町内会役員、民生・児童委員等を中心とした地域住民や大学生ボランティアも参加し、高校生と一緒に意見交換を行いました。普段生活する上で、地域の住民や年の離れた大人の人と対等に話をする機会というのはなかなかないので、生徒と地域の大人との相互理解を促進し、信頼関係の構築を図ることを目的として開催されています。

短い時間ではありましたが、他人を思いやる気持ちや命の大切さについて10人弱のグループに分かれて意見交換を行いました。生

徒からは、「年齢の違う自分よりも長く人生を歩んでいる人の言葉を聞いて、今までの経験や身に付けた知識が違ふと感じ、たくさんのことを学ぶことができた。」「思いやりは性別や年齢で決めるものではなくて、その人の気持ちや事情を知ってから判断するものだと思う。」「等の感想が寄せられたとのことでした。私自身も、地域の青少年と「命」について話をするという経験はなく、様々な意見を聞くことで刺激を受けることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

むつ青年会議所としての責任を自覚し、明るい豊かな社会を築き上げるために、今後も活動をまい進するとともに、自己成長につなげていきたいと思えます。

